
施設

夜汽車

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
施設

【Nコード】
N2754P

【作者名】
夜汽車

【あらすじ】
私は、なにも出来ない一人の人間。
あらゆる場所から逃げ出し、追い出され、生活をする。

(前書き)

昔から思っていたことを著しました。

社会や家族に対する怒りと悲しみを込めています。苦手な方はご遠慮ください。

朝4時。何も持たずに家を出た。いいや、追い出された。手元にあるのは、41円が入った財布だけ。

私はこれからどうやって生活すればいいのか。

親に頭を下げれば、たったそれだけで済む話である。でもそれは「施設」に戻されるも同義。それだけは嫌だ。

「施設」の生活は凄まじいものだった。

上に立つものが好き勝手に命令し人間を操る。ロボットのよう。そこに人権とか、法律とかいうのは一切関係ない。「施設」には「施設」のルールがある。

楽しいことなどひとつもない。仲間、皆同じ苦しみを味わっている者ばかりだ。

共に助け合って、支えながら暮らしてきた。でも私は耐えられなかった。

そして、私は遂に「施設」を逃げ出したのだ。

親はもちろん、そんな私を許してくれなかった。

厳しい罰が私に下った。ご飯も、住まいも、何もかもを失った。

ただ、頭を下げれば済む話なのに。

私はそれができないでいる。

(後書き)

実際の生活と創作をごっちゃにしたものを書いてみました。

私は親と話すことが世界で何よりも苦しいと、小さいころから思っています。

親の都合で振り回されて、反抗すれば金を盾に従わせようとする。そんな社会と人権を軽視する行為への怒りを、文にしました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2754p/>

施設

2010年12月3日11時31分発行